

千葉商工会議所景気動向調査

平成 30 年 5 月調査結果

平成 30 年 6 月

千葉商工会議所

千葉商工会議所景気動向調査

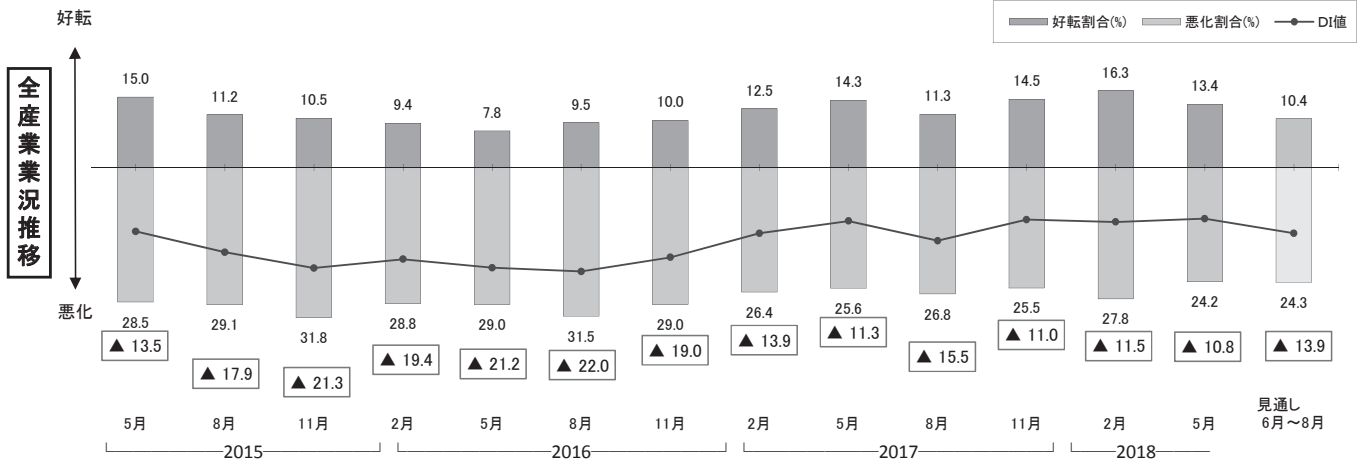
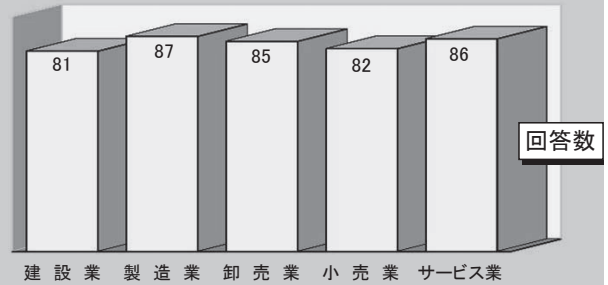
……平成30年5月調査結果報告……

調査期間：平成30年5月10日(木)～5月25日(金)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 421社 回答率 84.2%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体的特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成30年2月、以下同じ)と比較して、建設業・サービス業が下降し、製造業・卸売業が上昇、小売業が横ばいとなった結果、全産業合計DIは0.7ポイント上昇して▲10.8となり、横ばいとなった。

また、向こう3ヶ月(6月～8月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業・製造業・卸売業は下降し、小売業・サービス業が上昇となっており、全産業合計DIは現状より3.1ポイント下降の▲13.9となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、建設業・製造業が下降し、卸売業・小売業・サービス業が上昇となった結果、全産業合計DIは1.2ポイント上昇して▲7.9となり、2期ぶりの改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業・卸売業が下降し、建設業・小売業・サービス業が上昇の見込みとなっており、全産業合計DIは現状より2.7ポイント下降の▲10.6となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業が下降し、製造業・卸売業・サービス業が上昇、小売業が横ばいとなった結果、全産業合計DIは4.5ポイント上昇して▲11.2となり、2期連続で改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業・製造業・卸売業が下降し、小売業・サービス業が横ばいの見込みとなっており、全産業合計DIは現状より4.5ポイント下降の▲15.7となっている。

仕入単価DIは、3期ぶりに改善しているものの、低水準で推移しており、原材料・燃料価格の高騰が続いている。

従業員DIは、4期連続で過去最高値を更新しており、深刻な人手不足の状況が続いている。

資金繰りDIは、4期ぶりに改善しているものの、長期的には横ばいで推移している。

全体を総括すると、業況DIは2期ぶりに改善したもののほぼ横ばいで推移している。また、人手不足の深刻化や原材料価格の高騰が続いている。特に、人材不足については、従業員DIが4期連続で過去最高値を更新した。先行き見通しは、小売業・サービス業が上昇すると見込まれているものの、慎重な見方が続いている。

【調査結果のポイント】

業況DIは2期ぶりに改善したもののほぼ横ばいで推移。

従業員DIが4期連続で過去最高値を更新し、慢性的な人手不足が続いている。

先行き見通しは、慎重な見方となっている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは15.0ポイント下降して▲15.0に、売上DIは13.7ポイント下降して▲15.0に、採算DIは7.0ポイント下降して▲16.3となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・採算DIは下向くものの、売上DIは上向くとの見方になっている。

「建設業の人手不足は、深刻な状況に追い込まれている」「例年に比べて、公共工事の案件がかなり少ない」などの声があった。

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは11.8ポイント上昇して5.8に、売上DIは2.5ポイント下降して4.7に、採算DIは13.1ポイント上昇して2.3となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より下向くとの見方になっている。

「人員募集を行っているが応募が無い」「取引先の大企業の設備投資があり、好調」「受注は旺盛、人材は不足」などの声があった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは4.7ポイント上昇して▲9.5に、売上DIは14.4ポイント上昇して▲2.3に、採算DIは4.9ポイント上昇して▲10.6となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より下向くとの見方になっている。

「物流費の値上がりが利益を圧迫している」「正社員の定着がなかなかできない」などの声があった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは0.9ポイント上昇して▲24.4に、売上DIは4.7ポイント上昇して▲14.6に、採算DIは0.9ポイント上昇して▲19.5となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

「材料の値上がりが相次いでいる」「残業時間をいかに減らしていくかが課題となっている」などの声があった。

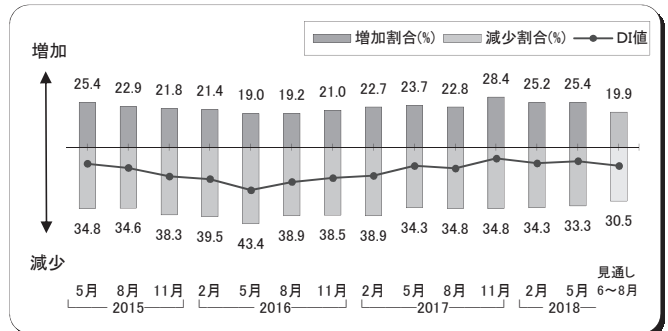
・サービス業

前回調査と比較して、業況DIは0.5ポイント下降して▲11.6に、売上DIは1.8ポイント上昇して▲12.8に、採算DIは9.5ポイント上昇して▲12.7となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DIは採算DIは上向くものの、採算DIは横ばいとの見方になっている。

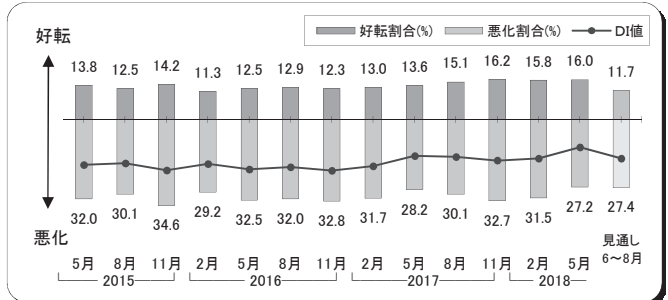
「慢性的人材不足」「募集を出してもほとんど応募者が居ない状況が続いている」などの声があった。

【全産業】

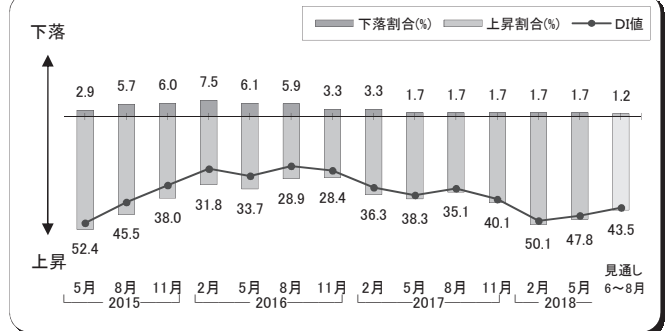
売上推移



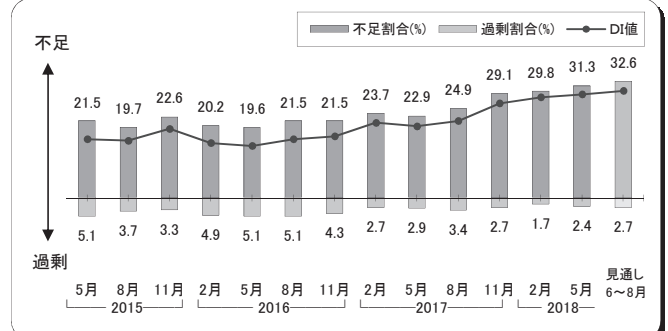
採算推移



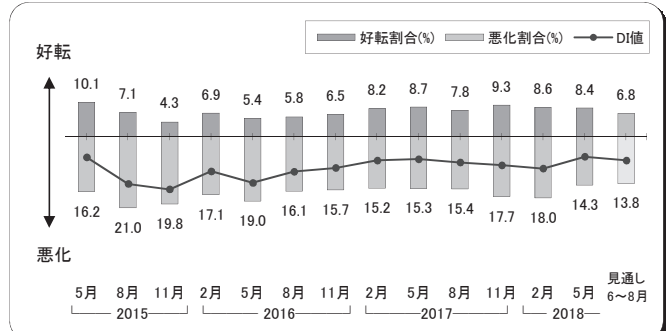
仕入単価推移



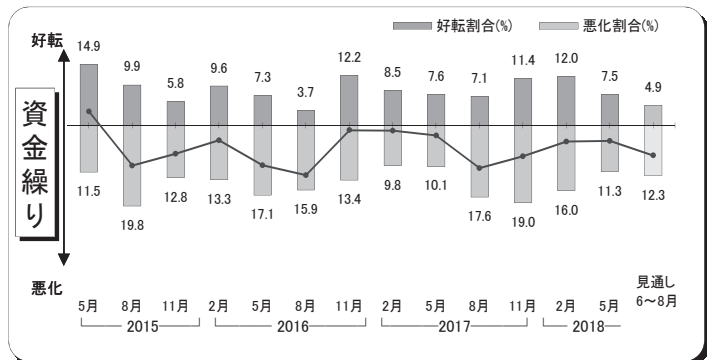
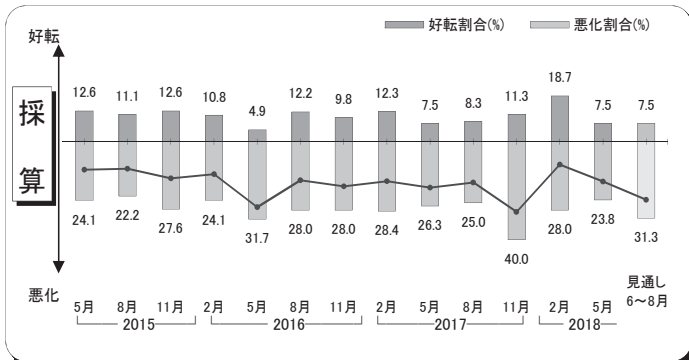
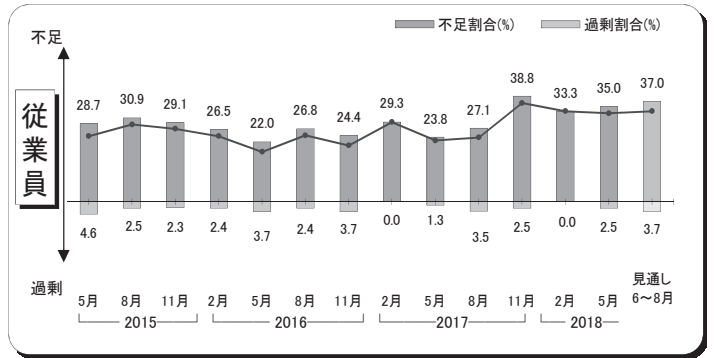
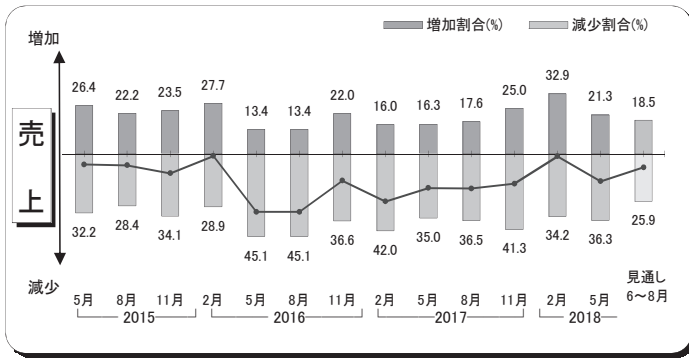
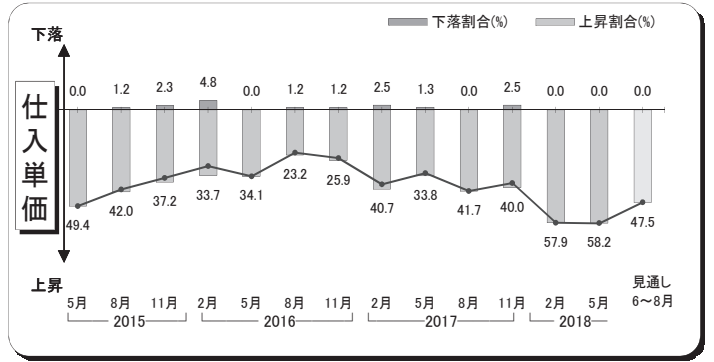
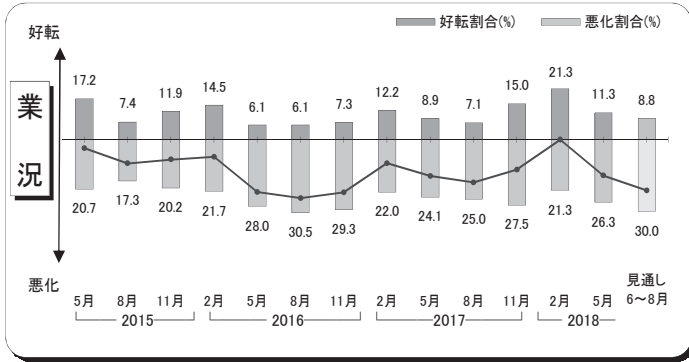
従業員推移



資金繰り推移



【建設業】①

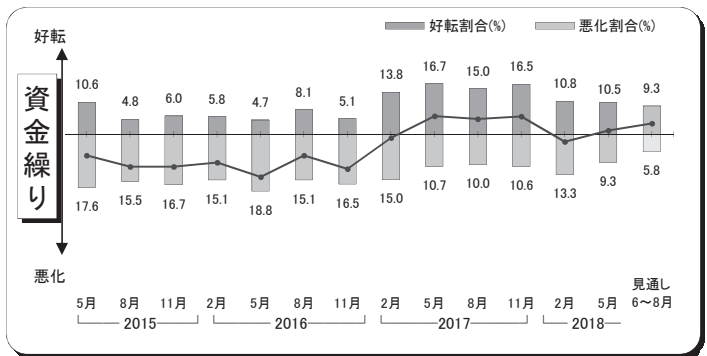
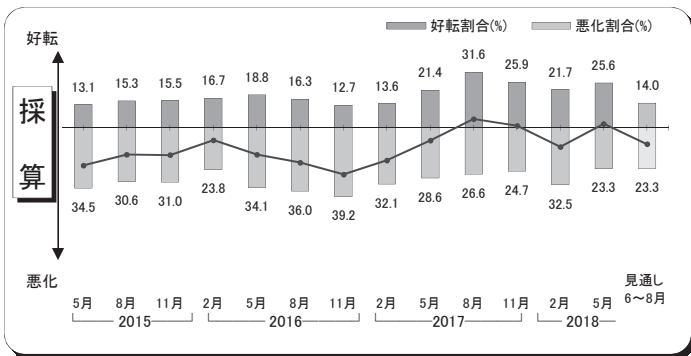
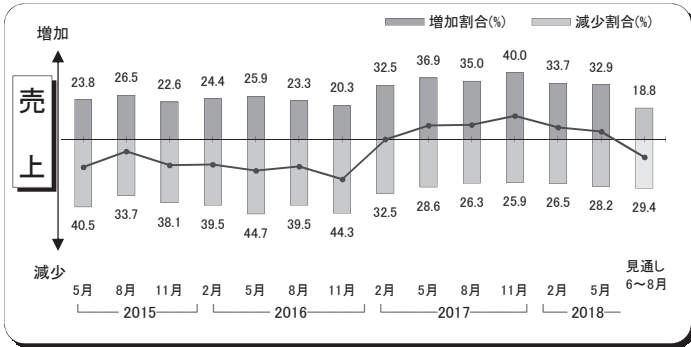
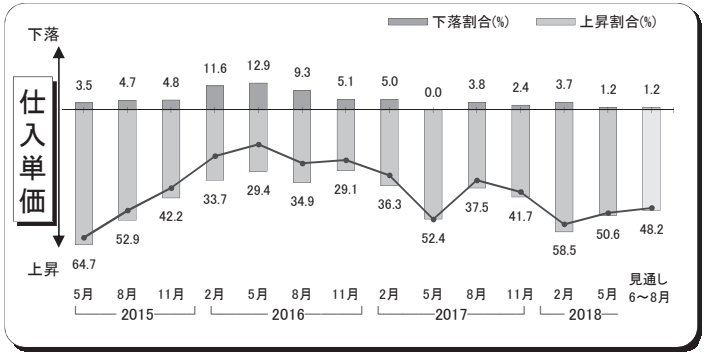
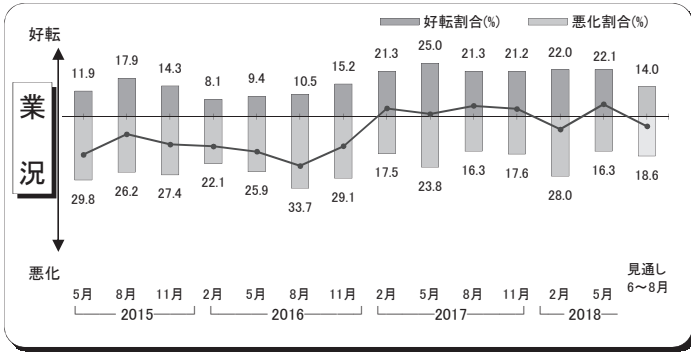


【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	仕事自体が少ない。賃貸物件の案件が少ないという印象を受ける。
土木建築工事業	土地・建物等好調、仕入・販売共。
土木建築工事業	建設業（当社のような解体躯体業は特に厳しい）の人手不足は、日々深刻な状況に追い込まれている。経費節減、営業所閉鎖等により、企業努力しているが、今後も厳しい状況が続くと思われる。
土木建築工事業	仕入単価が値上がりして行くなか、消費税が高くなったら業況が悪化するのではないかと心配になる。
土木建築工事業	新卒を採用したいが採用出来ない。（応募がない）
土木工事業	例年に比べて、見積もり案件が少なく、売上が落ちる。理由は不明だが、業界全体で仕事が減っているのではないかと。
造園工事業	業界全体かは分からないが、仕事自体が少ない
建築リフォーム工事業	お客様層が高齢化に成ってなかなか業績が上がらない。又、ネット販売等で価格破壊が進んでいるので非常に大変である。
とび工事業	去年にくらべて現場量が増えて売上も上がっているが、仕入（当社は主に廃棄）がやや上昇しているので、思いのほか利益が少ない。さらに人員不足もあって外注にたよるしかなく、それも利益が少ない要因でもある。
とび工事業	例年に比べて、公共工事の案件がかなり少ない。小口の案件はあるが、大口は全然ない。
電気工事業	小規模企業は、退職者は少ないが、欠員が生じた場合の補充が厳しい。
管工事業	高齢社員の技術を新卒・中途採用の社員に2年間で教育し、技術移行する。機械の更新を30年～31年に行い、効率を促進させる。経費の削減を推進し、32年以降の景気後退に備える。
冷暖房設備工事業	人材の採用と育成、より良い会社にしていくための改善が経営上の課題である。

【製造業】①

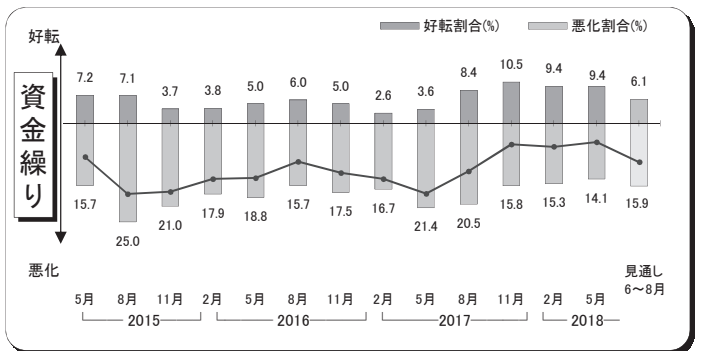
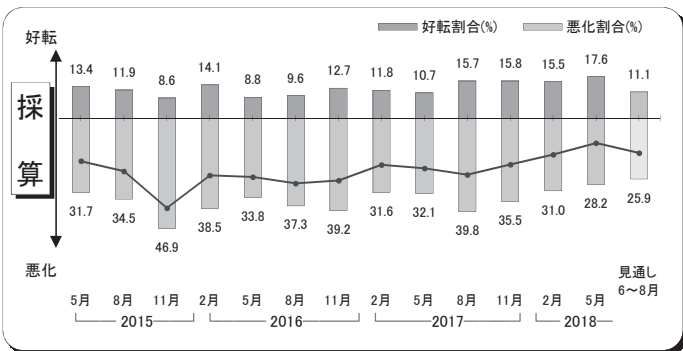
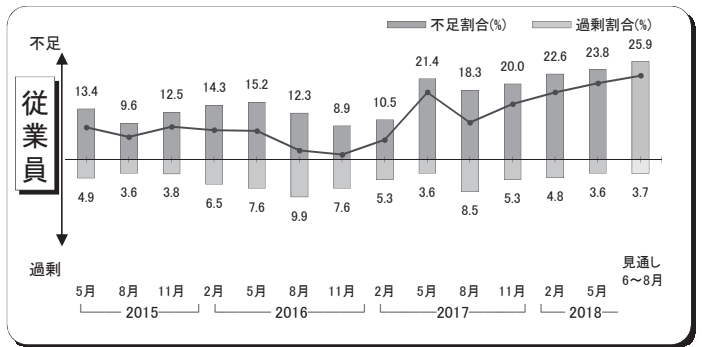
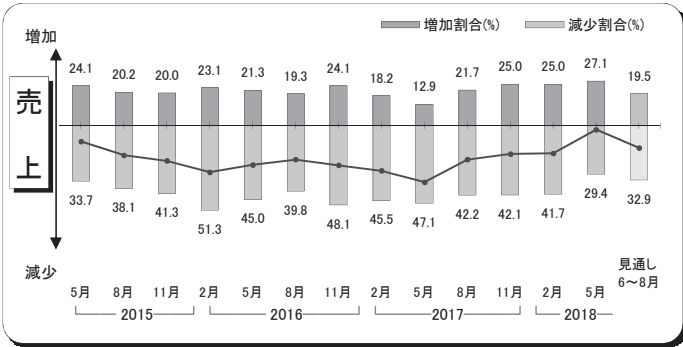
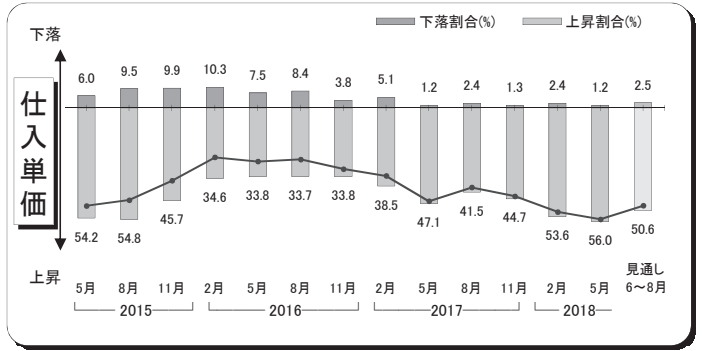
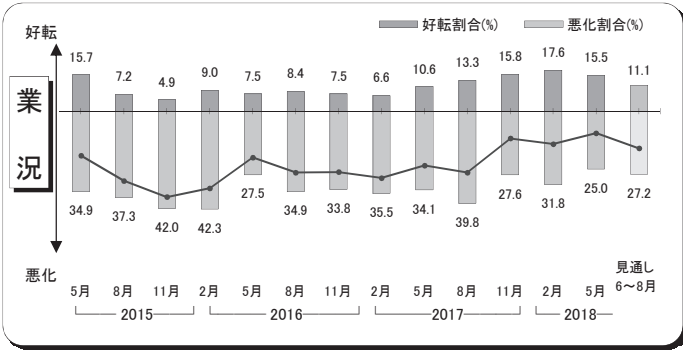


【製造業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

処理牛乳・乳飲料 製造業	安定供給・地産地消傾向が今年は強まっている。
オフセット印刷業	宅配便の値上げの為、運送経費の上昇に苦しめられている。
コンクリート製品 製造業	徐々に仕入品（原材料など）の値上げが増えている。短期的に段階的に上がったものもある。この状況を受け、自社製品の値上げを検討。この先は新規物件よりも維持メンテナンス補修中心に対応したサービス・製品が求められる。
生コンクリート製造業	昨年と一昨年の調子が悪かったので相対的に今期は良いと感じられる。景気が良いというよりも、数年前の状態に戻ったという感じ。
コンクリート製品 製造業	オリンピック後の景気動向がつかめない。
建設用金属製品製造業	4月に中途採用することができ、大いに活躍を期待している。業績も順調に推移し、今の状態を維持していければと思っている。
製缶板金業	人材が計画通りに確保できない。
その他の金属表面 処理業	人員募集を行っているが応募がない状況。
物流運搬設備製造業	業況は不変でしばらく行くのではないと思うが、人手不足による人件費の上昇や消費者の増税が今後どのように響くか不安である。
はん用機械・装置 製造業	弱電・半導体関連の設備は減ったが、自動車関連の設備が増えている。
建設機械・鉱山機械 製造業	高齢の従業員が退社している分補充している。中途採用者でも溶接工は免許が必要であるが、そういう人はハローワークに来ていない。そこで自社で教育する方針を立案し、毎年新卒者を1～2名入社することとしている。
金属加工機械製造業	取引先の大企業の設備投資があり、好調。
生産用機械・同部品 製造業	中堅、大手製造業の好況感に対して、小規模製造業は、仕事量の減少、人手不足、生産性の低下等、長期低落傾向にある。国の抜本的な施策を望む。
生産用機械・同部品 製造業	新卒及び中途採用者の応募が少なく、人が増えない。
理化学機械器具製造業	景気が良いのではないかと。顧客の設備投資が進んでいる。特殊な機材を取り扱っていることから大企業と直接やりとりしているが、景気の影響のレスポンスが早いのだと思う。
集積回路製造業	仕入単価は円安の為、上昇だが、自社の製品が売れている為、利益率が良い。 （現在の状況は上昇だが、先は読めない。）
電力開閉装置製造業	景気の影響では無く、取り扱っているモノの関係でスポット的な売上があり調子が良いだけ。先行きが分らず不安。中小企業としては、正社員を増やしたいが、若手社員を中心とした正社員の成り手が居ない状態。女性や高齢者などの応募はあるが、フルタイム希望では無い。そうした非正規社員を増やして補うしかない。
産業用電気機械器具 製造業	受注は旺盛、人材は不足。ずっと続いている。人手不足が恐ろしい程心配である。

【卸売業】①

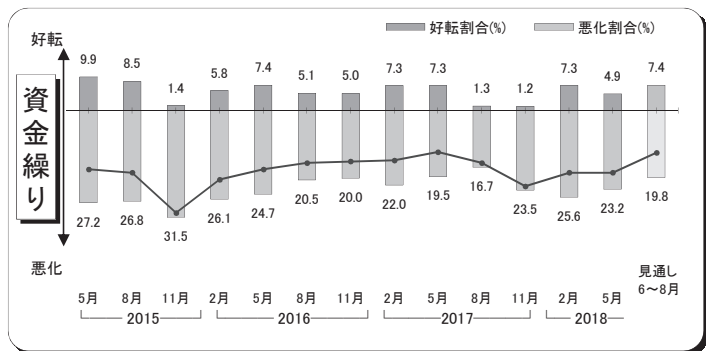
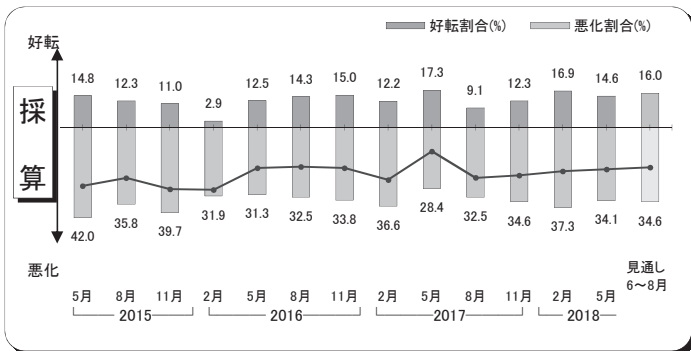
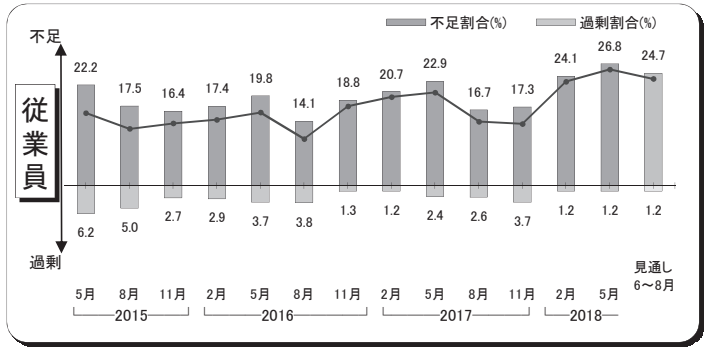
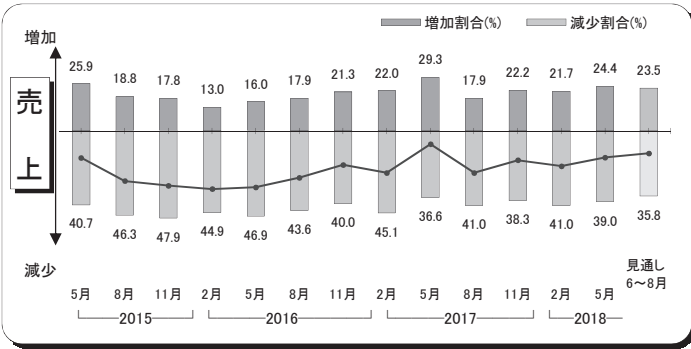
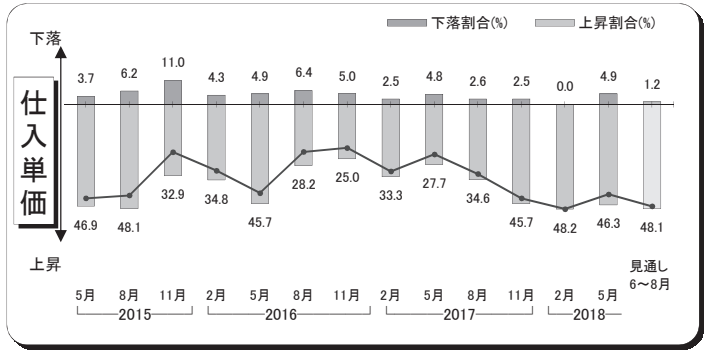
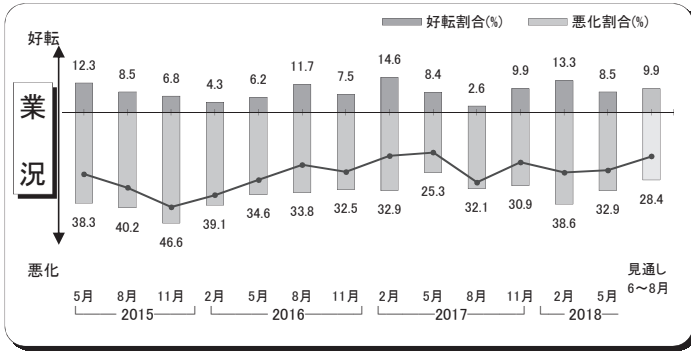


【卸売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

建築材料卸売業	商売は、最近は特殊なものをのぞき中間（問屋）は大変である。生産者から直接、業者又は消費者にと変わってきた。（大分前から）商売もしづらくなり廃業する業者も結構ある。なんとか特徴のあるものにしたいと思うが大変である。
鉄鋼製品卸売業	国内メーカーの再値上げより東南アジア各国共嫌気ムード。ここに来て、中国、韓国産で対応している様子。度重なる仕入価格の高騰に伴い成約状況困難を極めている。
医薬品卸売業	物流費の値上げが利益を圧迫している。働き方改革として残業を減らし効率良く稼働出来るかを考えないといけない。
非鉄金属スクラップ卸売業	トランプ大統領の鉄鋼、アルミへの輸入関税強化により鉄、非鉄、アルミ商品市況の変動幅が大きくなり、先行見通しが難しい。原油も上昇してきており、デフレから再びインフレ化傾向へ移行していくのかもしれない。アルミ、鉄缶、スクラップは季節的に発生季に入っており、量的な期待をしている。本来ならば、発生増大と共に価格は弱含みになるのが例年の市況だが、トランプ政策により今年は大きく下がらないと思う。
建築材料卸売業	正社員の定着がなかなかできない。大規模（量販店）やホームセンターにおされ、なかなか売上げがのびない。

【小売業】①

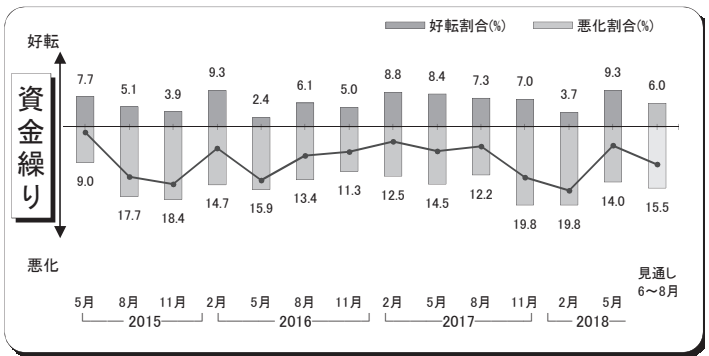
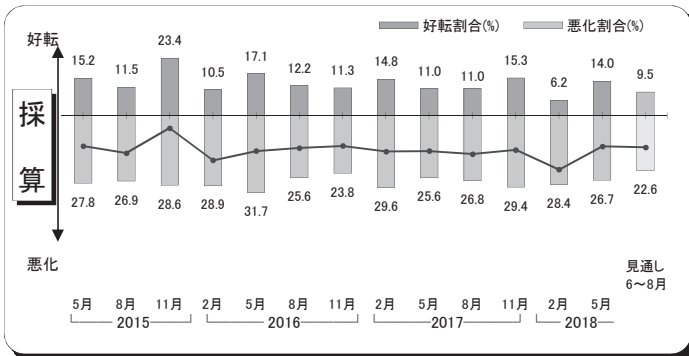
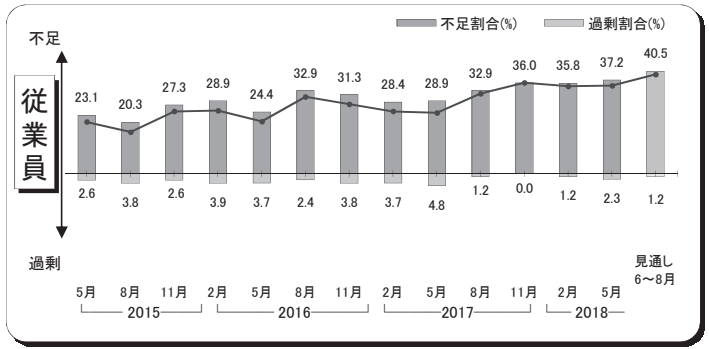
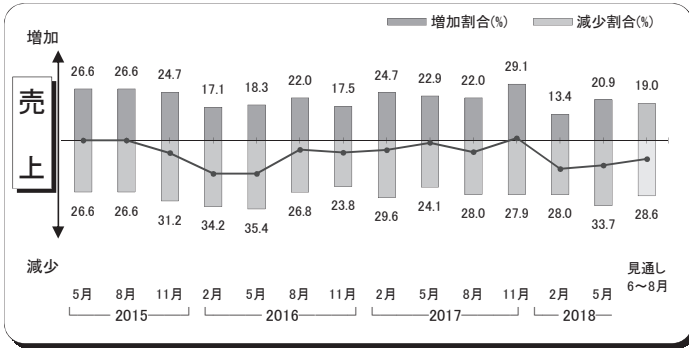
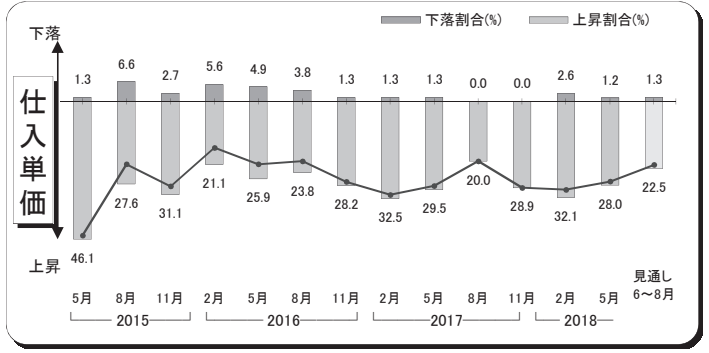
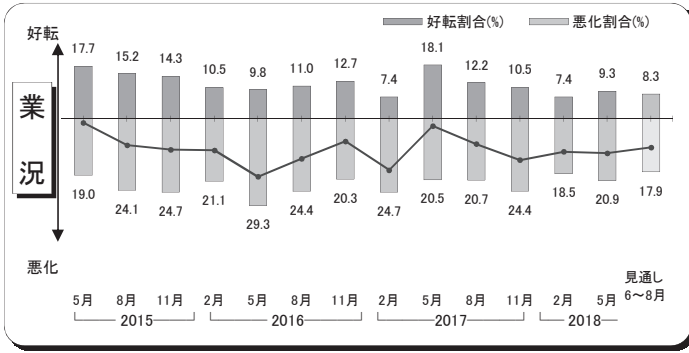


【小売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

婦人服小売	商店街の空店舗が多くなり、客数が減少している。
各種食料品小売業	このところまたもや材料の値上げが相次いでいる。2月に商品の価格を20年ぶりに上げたが、原価がまた上がってしまった。
電気機械器具小売業	大変きびしい。
その他の機械器具小売業	高齢者を対象とした小売業であり市場の拡大が期待できる分、競争過剰になってきている背景の中、現状維持だけでも大変である。
家具小売業	年度末に仕事が集中。その結果、車、人が不足し経費増につながる。
陶磁器・ガラス器小売業	この数年は流通の省略化で製造元から小売店との流れで、単価の値崩れで利幅が少ないうえに売上は変更ないので、物販業界は大変な苦境になっている。家族経営で年々、年を重ねていき、体力的にも精神的にもきつく感じられる今日このごろである。
医薬品小売業	最悪見通しはやや改善傾向と思われるが、医療費削減の傾向は変わらず、先行は暗い。
書籍・雑誌小売業	業績は上がらないのに従業員の勤務時間が長くなっている。今後、残業時間をいかに減らしていくかが課題となっている。我が社も「働き方改革」に真剣に取り組む時期がきた。
スポーツ用品小売業	業界は再編と閉店が続いている。景気が回復しないと難しいかもしれない。当社も業種替えを含む色々な取組をしている。
ホームセンター	GWの強風、ここ3～4日の雨など悪天候の影響で苦戦中。
ジュエリー製品小売業	消費税の値上げに伴い、貴金属類の売上げ上昇。
他に分類されない その他の小売業	6月～8月は、昨年と比べて、売上はかなり減少する。よって従業員を入れたくても入れられない状況である。採用する以上は、その方の生活守ってあげなくてはいけないからである。無責任な考えで人は採用できない。同業他社との競争で、先行、売上の増加は見込めない見通しである。

【サービス業】①



【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

テレビジョン番組制作業	映像業界内にてドローン撮影に特化した企業として邁進してきたが、機体の性能が日々進化し、価格的にもリーズナブルに受注している企業が日本全国に存在してきたため、弊社独自の参入障壁を築いていきたい。
運輸附帯サービス業	先月と比較し、新年度に入って作業が減っている。例年もこの時期は停滞ぎみではあるのだが、そればかりではないようだ。報道によると、総じて大手企業の業績は良いようだが、中小零細は厳しいように感じる。サービス業ほど、人材不足は感じられないが、採用しても落ち着かないのが現状である。マスコミの報道に一喜一憂しがちだが、現状を厳しく判断し、手堅い策を講じて無理はしない。
貸事務所業	5月に既に1名入社致しました。
不動産賃貸業	都市部以外にその周辺部においても「空家」問題が注目されてきている。それぞれに事情があるにせよ、放置されている建物が気になる
不動産管理業	好況のため、貸ビル業としては入居事業者がより広いスペースを求めて転居の動きが予想される。（電気工事業者）
建設機械器具賃貸業	4月より値上げの申請を徐々に行っているが、お客様にうまく浸透していくのかどうか。仕事があっても機材がない。結局、協力会社からの仕入が増える。燃料の価格も安定せず、今月は良くても来月はどうか？需要と供給のバランスを保って行く事が、先の資金繰りの見通しに繋がって行くと思う。
建築設計業	都心部では建設業の好況が言われているが、千葉市（千葉県）については概ね厳しい状況のまま推移している。
建築設計業	当期の売上は前期と比較して捗々しくなく、いまひとつ伸びていない。半期が経過したが赤字が続いており、10月末の当期終了までに黒字になるには相当な受注をしなければならないが、前期よりも状態が悪いので、かなりの苦しさがある。
建築設計業	公共事業費投資額の下落傾向に歯止めがかかり、この傾向が継続されることを想定した中期見通しが立案できる環境が感じられる。これに沿った、社員構成を確立することが急務である。
測量業	都市部以外の土地が殆ど動かないので仕事が減る傾向にある。人口減少に伴い経済の活性化も減少して来ている。
旅館、ホテル	不採算部門を減少した為、売上高は減少したが採算は悪化せず好転している。
旅館、ホテル	近隣に進出する予定の競合店の存在が非常に脅威だと思います。
旅館、ホテル	慢性的人材不足
旅館、ホテル	先行予約減少、間際のインターネット予約が中心。都内ホテルの料金の下落、浦安・海浜幕張・船橋のホテルの増加、客室数の増加により、千葉エリアの入込みが減少。インバウンドは海外個人客が増加、一方団体客が減少。千葉エリアも今後、ホテル開業ラッシュ。稼働率優先ホテルが主流の中、価格競争に拍車がかかる。
専門料理店	依然企業の国内での経済活動は低下していると感じる。海外での稼ぎも還流しないので、日本経済は当分低迷すると思う。消費の構造も、ネット通販、USEDマーケットの拡大等で（シェアエコノミーも含め）、大きく変わってきている。当社はレストラン経営については改築の為、一時的に休業した分売上げは減少したが、その後は、前年度を上回る結果となっている。輸入業務の売上げは減少傾向にある為、全体としてはマイナス。今後のレストランの伸びに期待している。
そば・うどん店	店売、配達を行っている一般的なそば屋だが、先日、膝を怪我してしまい、配達を休んでいる。売上減少の原因の1つだと思ひ、連休明けの店売減少もあると思う。
すし店	連休明けは、いつも通り客数は減るが、昨年よりは伸びている。
喫茶店	パート・アルバイト採用したいが、求人問い合わせなし。周辺の時給が高く、同じ時給を出せない。小企業は必ず淘汰される。
ビルメンテナンス業	募集を出してもほとんど応募者がいない状況が続いている。特にホテルの清掃やベッドメイクの見積もり依頼は時々あるが、人の確保が困難な為、断っている。

*前年同月比"DI"値の推移

(1)業況

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the DI value change.

(2)売上

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the revenue change.

(3)採算

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the operating profit change.

(4)仕入単価

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the unit price change.

(5)従業員

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the number of employees.

(6)資金繰り

Table with 19 columns for months (May to August) and 6 rows for sectors: 業況, 全産業, 製造業, 建設業, 卸売, 小売, and サービス. Each cell contains a numerical value representing the cash flow.

*先行き見通し「D」値の推移

(1)業 況

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

(2)売 上

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

(3)採 算

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

(4)仕入単価

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

(5)従業員

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

(6)資金繰り

Table with 19 columns (Year, 8月, 11月, 23年2月, 5月, 8月, 11月, 25年2月, 5月, 8月, 11月, 27年2月, 5月, 8月, 11月, 28年2月, 5月, 8月, 11月, 30年2月, 5月) and 11 rows (業 況, 業 種, 見通し, 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス).

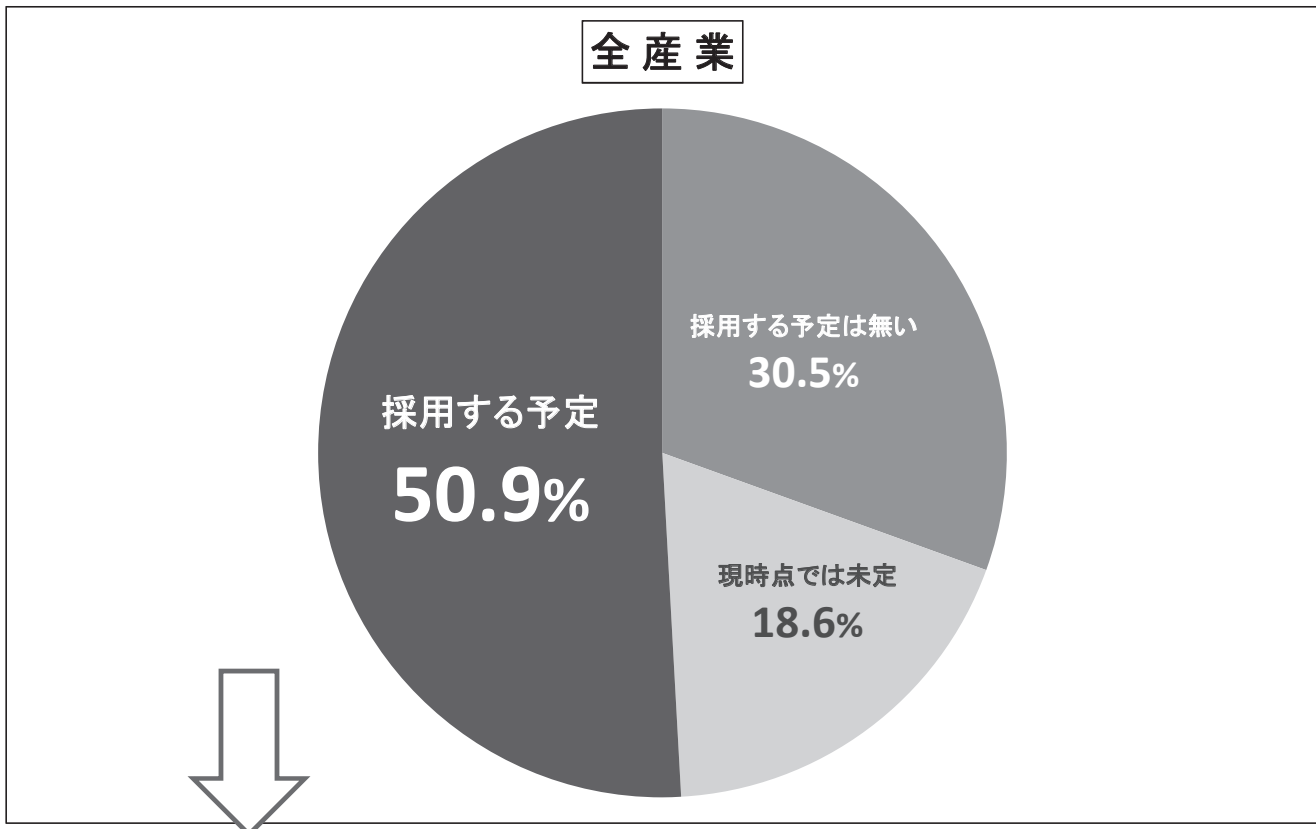
千葉商工会議所景気動向調 …平成30年5月調査結果報告…
(付帯調査) 集計結果

業種	全業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
回答数	344	63	71	67	66	77

【調査結果のポイント】

- ・平成30年度に採用を予定している企業は、全体の50.9%。
- ・昨年度と比較し「正社員の採用を増やす」と回答した企業は、全体の48.0%。

(1)平成30年度の採用について(複数回答可)



※カッコ内は、平成29年5月調査結果

業種別の割合

業種	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
割合	50.9% (48.3%)	50.8% (51.5%)	59.2% (60.0%)	46.3% (38.7%)	42.4% (35.8%)	54.5% (54.9%)

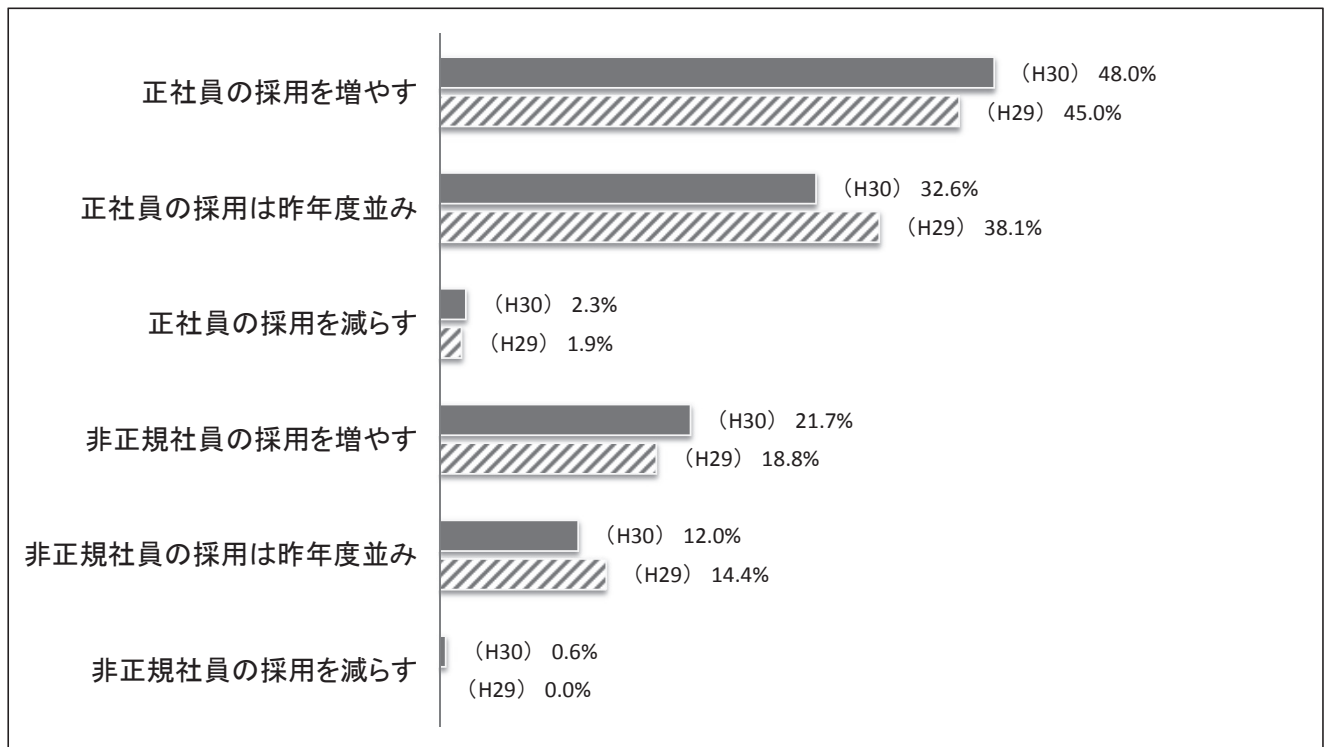
採用予定の内容(複数回答可)

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
正社員を新卒採用する	41.1% (40.6%)	53.1% (55.9%)	35.7% (35.9%)	32.3% (29.2%)	46.4% (54.2%)	40.5% (30.8%)
正社員を中途採用する	65.1% (63.1%)	65.6% (70.6%)	78.6% (61.5%)	58.1% (66.7%)	50.0% (58.3%)	66.7% (59.0%)
非正規社員を採用する	38.3% (36.9%)	15.6% (14.7%)	31.0% (38.5%)	29.0% (29.2%)	75.0% (54.2%)	45.2% (48.7%)

(2) 昨年度と比較した今年度の採用方針について

「(1)平成30年度の採用予定について」で「採用する」と回答した企業に伺った。(複数回答可)

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
正社員の採用を増やす	48.0% (45.0%)	53.1% (55.9%)	50.0% (41.0%)	38.7% (33.3%)	42.9% (45.8%)	52.4% (46.2%)
正社員の採用は昨年度並み	32.6% (38.1%)	31.3% (38.2%)	35.7% (43.6%)	35.5% (50.0%)	25.0% (33.3%)	33.3% (28.2%)
正社員の採用を減らす	2.3% (1.9%)	6.3% (0.0%)	2.4% (2.6%)	3.2% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (5.1%)
非正規社員の採用を増やす	21.7% (18.8%)	6.3% (11.8%)	23.8% (20.5%)	16.1% (12.5%)	46.4% (20.8%)	19.0% (25.6%)
非正規社員の採用は昨年度並み	12.0% (14.4%)	3.1% (5.9%)	9.5% (17.9%)	6.5% (8.3%)	25.0% (20.8%)	16.7% (17.9%)
非正規社員の採用を減らす	0.6% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.4% (0.0%)





【お問い合わせ】
千葉商工会議所
企画経営部 企画広報課
〒260-0013
千葉市中央区中央 2-5-1
TEL: (043) 227-4101
Mail: chosa@chiba-cci.or.jp

